

バングラデシュ／エネルギー診断士訓練プログラムを開始しました。

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、資源エネルギー庁の委託を受けて、バングラデシュとの二国間省エネ協力事業を実施しています。今年度から、「新任エネルギー診断士の実地訓練プログラム」を開始し、同プログラムの一環として、省エネセンターから専門家を派遣し、ダッカ郊外の縫製工場を対象に省エネデモ診断を実施しました。また、省エネデモ診断に先立って、エネルギー診断士及びエネルギー管理士を対象に「工場のエネルギー診断実施要領」をテーマに Webinar を開催しました。



縫製工場のエネルギー診断の様子（１）



縫製工場のエネルギー診断の様子（２）



エネルギー診断開始会議の様子



エネルギー診断後の集合写真

バングラデシュでは、2020年からエネルギー診断士試験制度が開始され、現在25名の認定エネルギー診断士（Certified Energy Auditor）が誕生している。しかしながら、これら25名の認定エネルギー診断士は、実際に工場やビルのエネルギー診断を実施した経験に乏しく、実践的な能力が不足していると考えられる。そこで、省エネルギーセンターとバングラデシュの省エネルギー制度実施機関である持続・再生可能エネルギー開発庁（SREDA：Sustainable and Renewable Energy Development Authority）は、今年度から新任エネルギー診断士の実地訓練プログラムを開始することとし、その第一弾として、10月1～2日の2日間、ダッカ郊外の縫製工場を対象として日本の省エネルギー専門家3名による工場の省エネデモ診断を実施した。診断レポートは、SREDAを通じて新任認定エネルギー診断士にも提供される。また、診断に先立つ9月20日には、今回の縫製工場のエネルギー診断計画を題材にして「工場のエネルギー診断要領とエネルギー診断の着目点」をテーマに Webinar を実施した。Webinarには認定エネルギー診断士に加え、認定エネルギー管理士を合わせた約50名が参加し、活発な質疑応答が行われた。